

土石流を3年で2回捕捉し 地域の中心地の被害をゼロに

災害時の効果発揮事例

概要 要：国土強靱化対策として前倒し整備した福岡県の砂防堰堤が、令和5年7月の大雨で効果を発揮し、さらに令和7年8月の大雨でも土砂・流木を捕捉し、下流の人家・緊急輸送道路・避難所等を保全。繰り返し効果を発揮した。

対策名：1-3 流域治水対策(砂防) <5か年加速化対策> 【国土交通省】

■ 実施主体：福岡県

■ 実施場所：福岡県朝倉市杷木古賀

■ 事業概要：

筑後川水系船底谷川では、平成29年九州北部豪雨の甚大な被害を受け、平成30年度より再度災害防止対策に着手し、令和5年3月に砂防堰堤が完成した。

■ 事業費：約10億円(平成30年度～令和4年度)

主な事業	実施内容	事業費	実施期間
砂防事業	堰堤工	約10億円	H30～R4
うち3か年緊急対策	堰堤工	約0.1億円	R2～R3
うち5か年加速化対策 (加速化・深化分)	堰堤工	約5億円	R2～R4

■ 効果：

令和7年8月の大雨では、時間最大約100mmの降雨で土石流が発生したが、国土強靱化対策による前倒し整備と除石による機能回復が功を奏し、土砂・流木約7,600m³を捕捉、人家400戸以上・緊急輸送道路・避難所等を保全。完成後3年で2回の土石流をいずれも捕捉し、繰り返し効果を発揮した。



資産等被害軽減効果
約60億円相当*

*算出方法は「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル(案)(国土交通省)」に準じる。

3年で2回の効果発揮

